

第 1 回宮崎市上下水道事業経営審議会

経営審議会の取組み内容について

- みやざき水ビジョン2020の進捗管理について
- 経営戦略の進捗管理について
- 令和 4 年度投資・財政計画ローリング
(水道事業、公共下水道事業)
- 今後の審議事項



○みやざき水ビジョン2020の進捗管理について

みやざき水ビジョン2020

基本理念「みやざきを支え、信頼を未来へつなぐ上下水道」

《5つの将来像》－《21の実施方策》－《61の取組内容》

- I 安全で強靱なライフラインの構築
- II 快適で良好な生活環境の整備
- III 自然環境に配慮したエネルギー対策と資源の有効利用
- IV 危機管理対策と持続可能な経営基盤の確立
- V お客様が身近に感じ、満足できる情報・サービスの提供

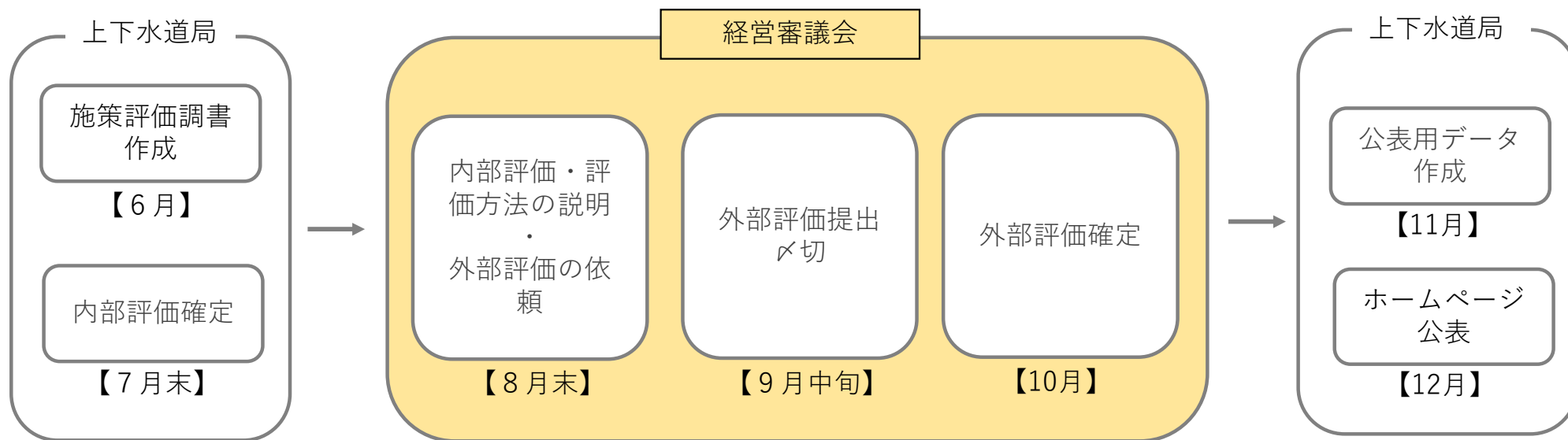
「みやざき水ビジョン2020」では、PDCAサイクルに基づき、計画を着実に推進するために、毎年度、「**施策評価調書**」を作成することで、各実施方策や取組内容について、その進捗と成果を確認するとともに、予算編成への活用などを通して新たな施策の構築や継続的な改善を図っています。

○みやざき水ビジョン2020の進捗管理について

●スケジュール

施策評価調書では、上下水道局が取組んだ前年度の各実施方策、取組内容の分析（新たな課題の抽出や事業の見直しなど）を行い、上下水道局の内部評価、経営審議会の外部評価を実施しています。

令和5年度も経営審議会委員の皆様には評価をしていただき、ホームページで公表します。



審議期間は8月から10月頃を予定しています。

○みやざき水ビジョン2020の進捗管理について

●令和4年度の施策評価調書(一部抜粋)

施策評価調書【みやざき水ビジョン2020・宮崎市上下水道局経営戦略】										(評価対象年度：令和3年度)				
II-4	浸水対策の推進	内部評価 内部評価の総括 B 取組は目標を達成している。引き続き豪雨等により浸水被害が多発する地域の浸水被害軽減対策に取り組むこと。												
取組の方針		外部評価 上下水道事業経営審議会の意見 B 排水路整備工事の実施などの取組で一定の成果が出ている。引き続き、河川及び道路の管理者と連携、調整しながら、豪雨時に浸水被害が多発する地域における効果的な被害の軽減対策に積極的かつ確実に取り組まれるよう期待する。												
■進捗管理表		委員の皆様による評価・意見												
取組内容	主な成果と新たな課題	【定性的評価】				【定量的評価】								取組内容の評価
		主要事業(参考)				指標								
		事業名【計画期間(年度)】	総事業費	R3実績	累計実績	指標名	KPI	ビジョン	単位	目標	実績	達成度	評価	
1	浸水対策 大宮(2)排水区(桜町地区)の排水路整備工事を実施し、排水面積18.1haにおける浸水被害軽減対策が完了しました。 なお、本郷排水区の蛸原2号雨水幹線上流部等の浸水被害軽減対策について、早急に検討する必要があります。	浸水対策事業【R1-R11】	約37億円	530,137	1,280,137	都市浸水対策達成率		○	%	58.1	58.3	100%	◎	現状維持 令和4年度には高岡町川原地区における雨水ポンプ場の整備工事に着手する予定であり、今後も引き続き豪雨等により浸水被害が発生する地域の浸水被害軽減に努めるとともに、本郷排水区の浸水被害軽減対策について早急に検討します。

○みやざき水ビジョン2020の進捗管理について

●施策評価調書の評価方法

上下水道局では、取組実績や各種指標をもとに内部評価を行っていますが、外部評価では、審議会委員の皆様の観点で、各施策の進捗状況や内部評価に対する評価・意見を行っていただきます。

なお、昨年度の評価作業をふまえ、以下の点を変更し、評価の客観性の向上及び評価作業の負担軽減を図ります。

【変更点】

- ①事業の達成状況をわかりやすく評価の参考とするため、「主な成果と新たな課題」を「取組実績」と変更しました。
- ②担当課としての達成度を5段階の点数による評価とし、評価の根拠を記載する項目を新設しました。
- ③各実施方策ごとに、内部評価での「担当課の評価の平均点」欄を新設しました。
- ④「内部評価の総括」を「内部評価の理由」に変更し、根拠を示すこととしました。

○みやざき水ビジョン2020の進捗管理について

●令和5年度の施策評価調書(一部抜粋)

④「内部評価の総括」から変更

施策評価調書【みやざき水ビジョン2020・宮崎市上下水道局経営戦略】

(評価対象年度：令和4年度)

施策体系	実施方針	内部評価	内部評価の理由
II-4	浸水対策の推進	A	担当課の評価が高いことに加え、排水区2箇所の排水路整備が完了したことにより令和4年度の都市浸水対策の達成目標が100%になったこと。耐水化計画を策定されたことから、A判定とした。
取組の方針		外部評価	上下水道事業経営審議会の意見
浸水被害が発生する地域において、その流域を調査・解析し、雨水幹線や雨水ポンプ場を整備して河川に排水するほか、道路排水を円滑に行うための集水枡増設など、河川・道路の管理者と連携しながら有効な浸水被害軽減対策に取り組みます。		委員の皆様へ評価・意見をいただく欄	

■進捗管理表

取組内容	主要事業(参考)				【定性的評価】 取組実績	【定量的評価】 指標						担当課の評価		
	事業名【計画期間(年度)】	総事業費	R4実績	累計実績		指標名	KPI	ビジョン	単位	目標	実績	評価	今後の方向性や特記事項	担当課の評価の平均点
1 浸水対策	浸水対策事業【R1-R11】	約37億円	57%	7,852,488	飛江田排水区や佐土原町の上田島排水区等の排水路整備工事が完了し、排水面積42.9haにおける浸水被害軽減対策が完了。 耐水化計画を策定し、対象施設となる大谷中継ポンプ場、福島中継ポンプ場の耐水対策に伴う実施設計を実施。	都市浸水対策達成率		○	%	100%	100%	5	都市浸水対策達成率について、R4目標値58.5%に対して、R4実績(見込)が58.8%となり、目標値を達成したため。 耐水化計画に基づき、対象施設となる汚水中継ポンプ場の耐水対策に伴う実施設計を実施した。 高岡町川原地区における雨水ポンプ場のR7年度供用開始に向け、事業を推進するとともに、今後も引き続き、豪雨等により浸水被害が発生する地域の浸水被害軽減を図っていく。 耐水化計画に基づき、計画的に対象施設となる汚水中継ポンプ場の耐水対策を実施していく。	5

①「主な成果と新たな課題」から変更

②「取組内容の評価」から変更
・達成度を5段階点数による評価
・根拠記載項目新設

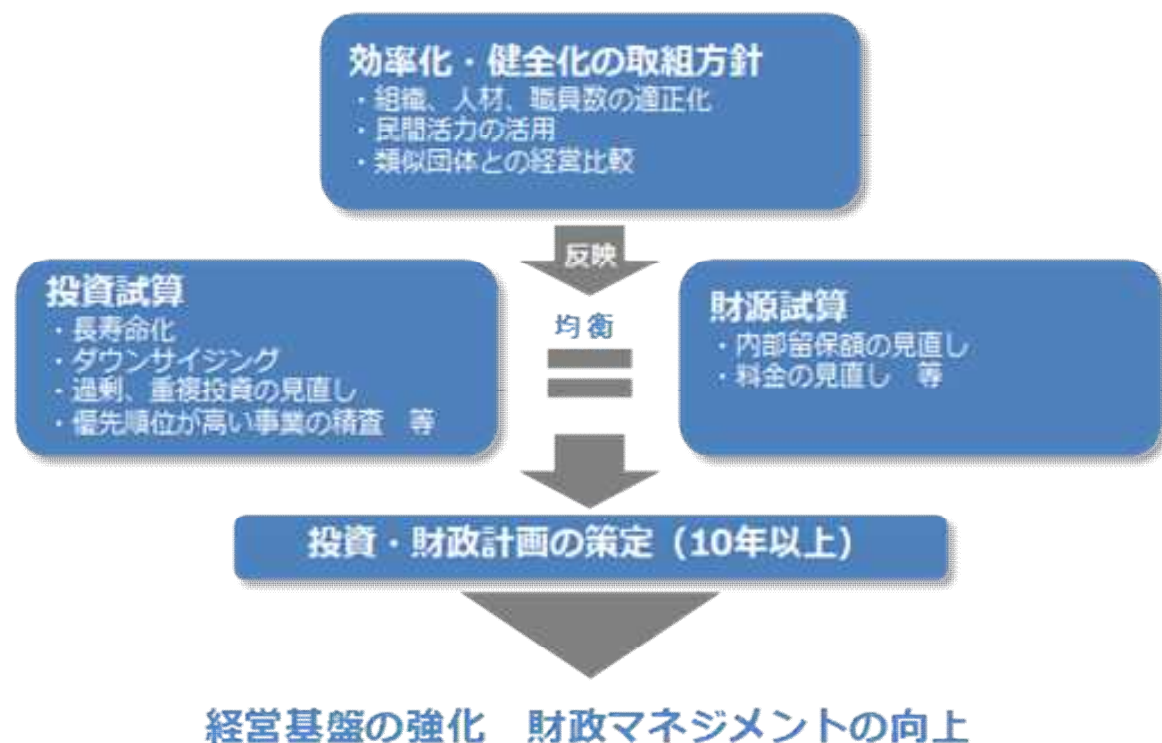
③各方策ごとの評価の平均点を表示

○経営戦略の進捗管理について

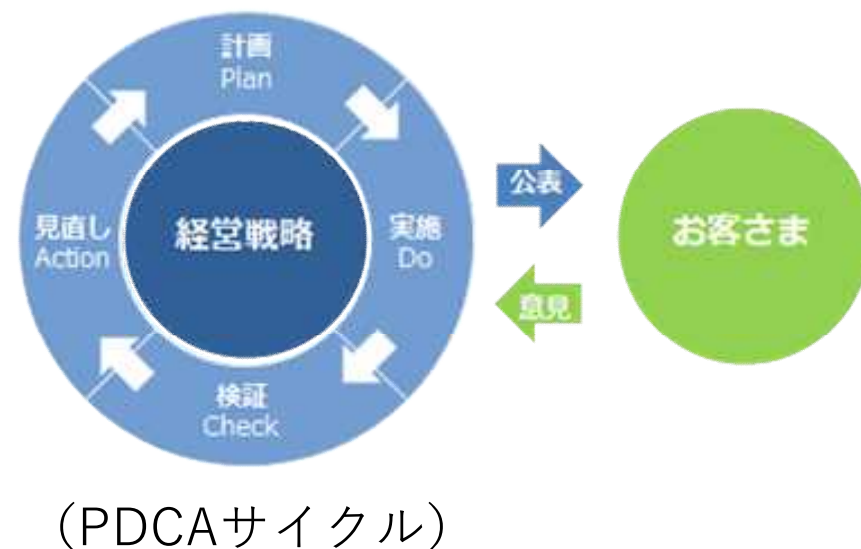
●投資・財政計画のローリング

事業計画の変更や社会環境の変化などを計画に反映するため、投資や財源の見直しを定期的に見直し、PDCAサイクルを活用したローリングを行っています。

【経営戦略イメージ】



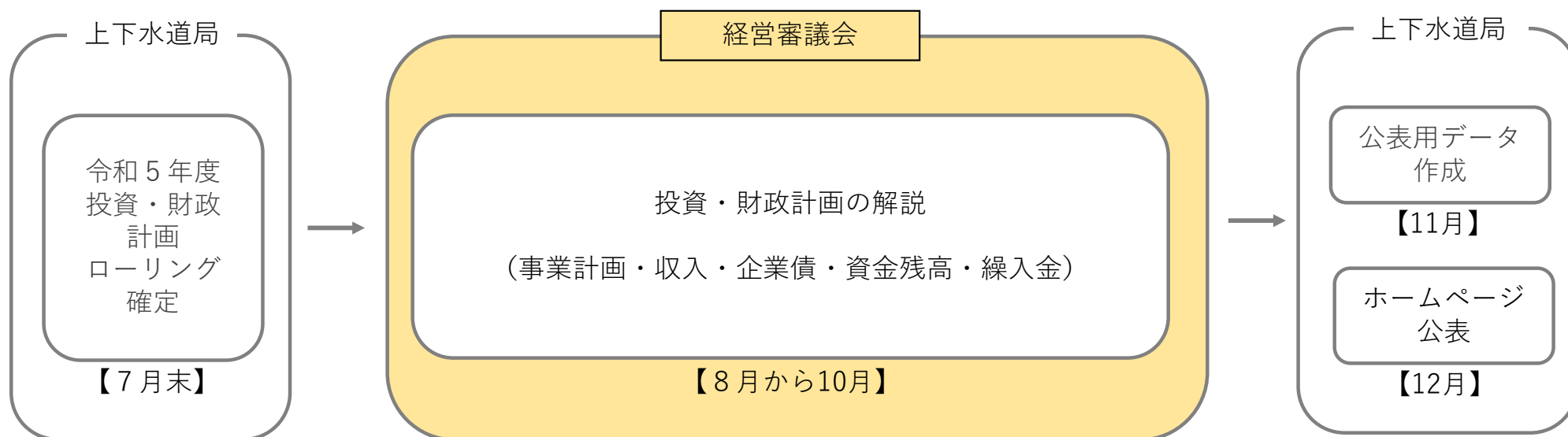
【進捗管理イメージ】



○経営戦略の進捗管理について

●スケジュール

令和5年度においても今後10年間における事業計画に基づいた財政状況を示し、経営基盤の強化と財政マネジメントの向上に取り組みます。



審議期間は8月から10月頃を予定しています。

令和4年度投資・財政計画ローリング

水道事業

- ローリング結果
- ローリング結果から見えてくる課題

○令和4年度投資・財政計画のローリング結果

投資・財政計画ローリング（主要値抜粋）

（単位：億円）

水道	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
収益的収入	77.8	78.0	77.6	76.4	75.8	75.5	74.8	74.3
うち給水収益	69.7	69.5	68.9	68.4	68.0	67.7	67.1	66.6
収益的支出	74.2	73.0	72.3	72.1	71.2	72.1	72.2	75.0
当年度純利益	3.6	5.0	5.3	4.3	4.6	3.4	2.6	▲0.7
建設改良費	33.0	46.7	41.0	43.1	43.0	30.4	38.6	43.1
企業債残高	355.0	355.3	353.1	352.0	351.2	345.2	343.1	343.2
資金残高	49.7	42.2	36.7	30.5	25.5	25.8	21.3	11.1

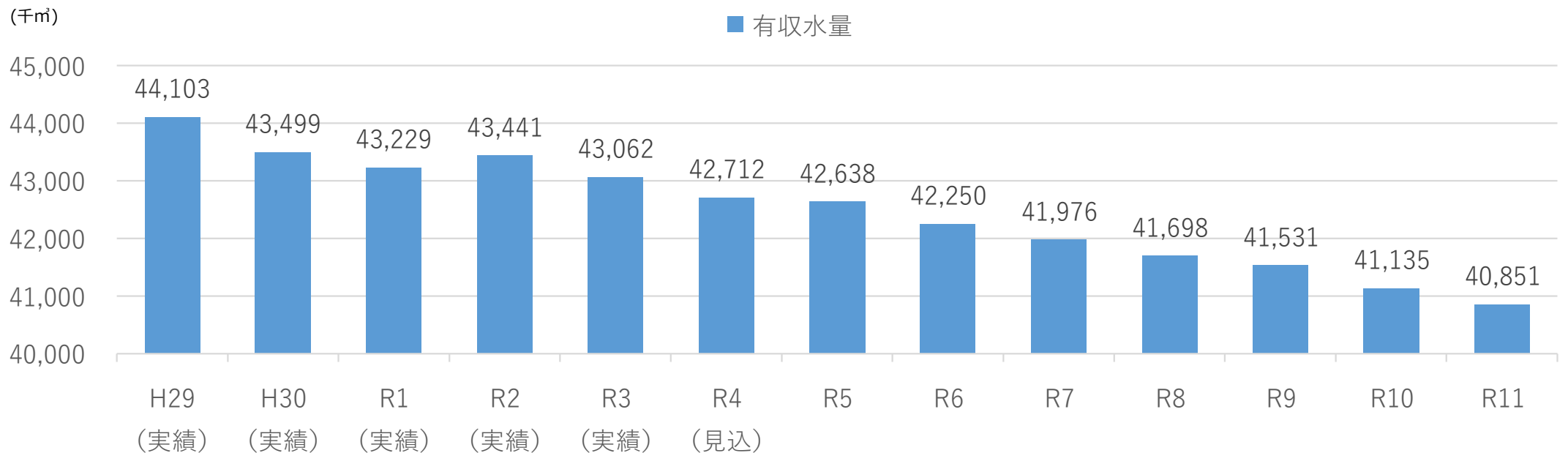
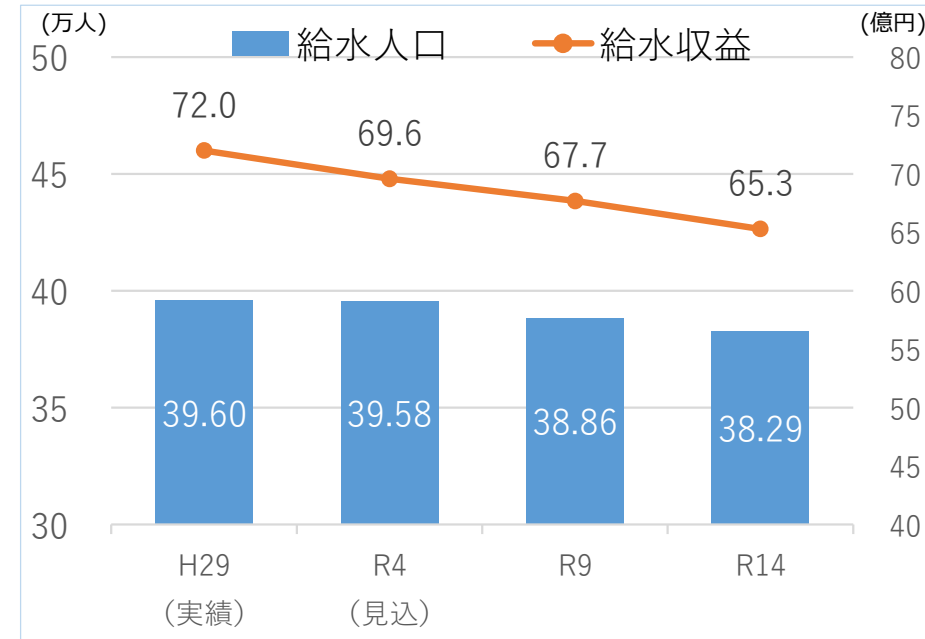
経営戦略における経営目標

- ✓ 当年度純利益の確保
- ✓ 企業債残高の減少
- ✓ 資金残高の確保

○投資・財政計画ローリング結果から見えてくる課題

①給水人口と給水収益

- ✓平成28年に料金改定
- ✓給水人口は減少傾向
- ✓人口減少、節水機器の普及と節水意識の浸透に伴い、給水収益も減少



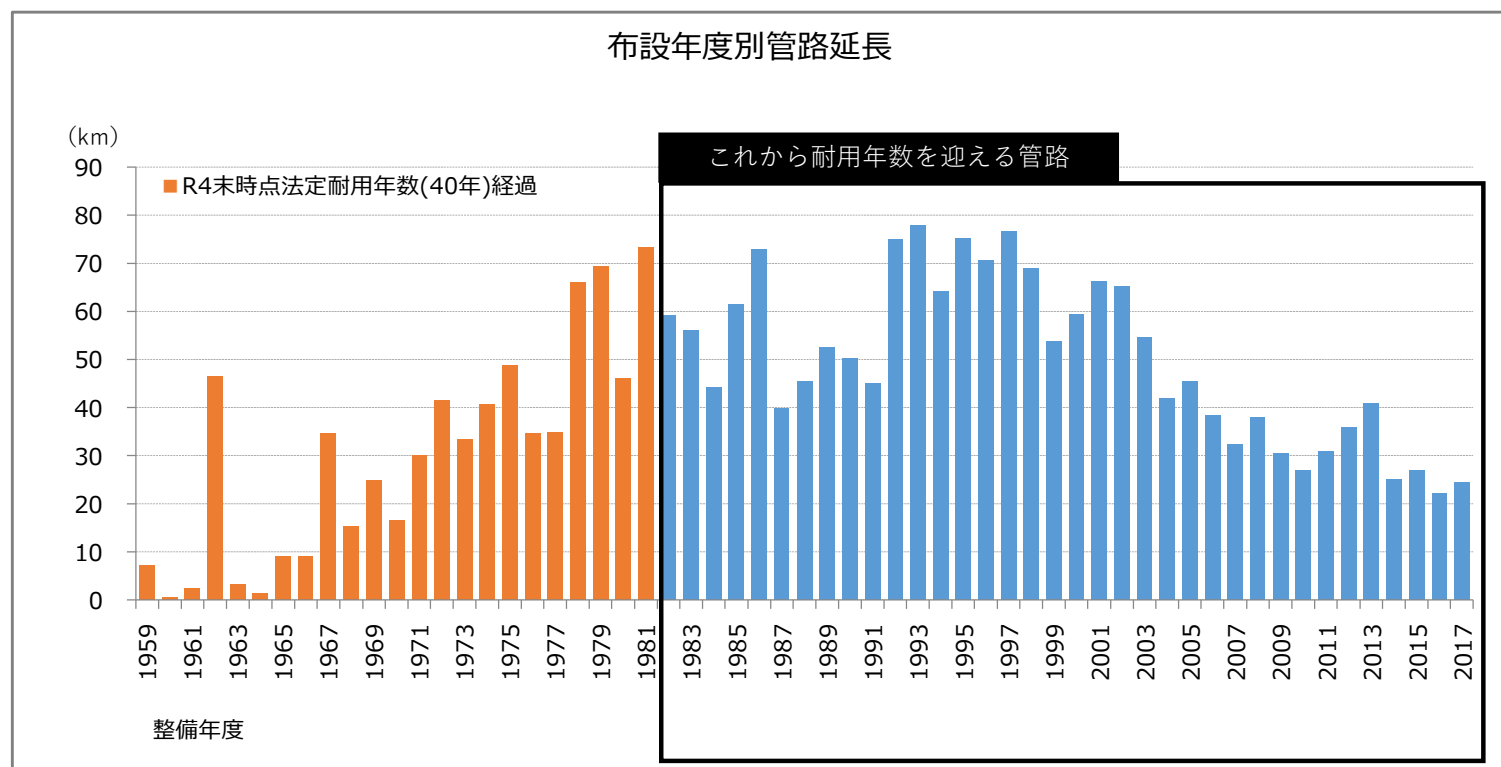
○投資・財政計画ローリング結果から見えてくる課題

②施設・管路の老朽化

- ✓ 赤い部分は令和4年度末時点で法定耐用年数の40年を超えている管路
- ✓ 黒い枠で囲まれている部分がこれから法定耐用年数を迎える管路
- ✓ 令和4年度末における管路の総延長は約2,623km
- ✓ そのうち約31%にあたる約810kmが法定耐用年数の40年を超えた経年管

管路経年化率

R1	21.1%
R2	26.7%
R3	29.0%
R4	30.9%

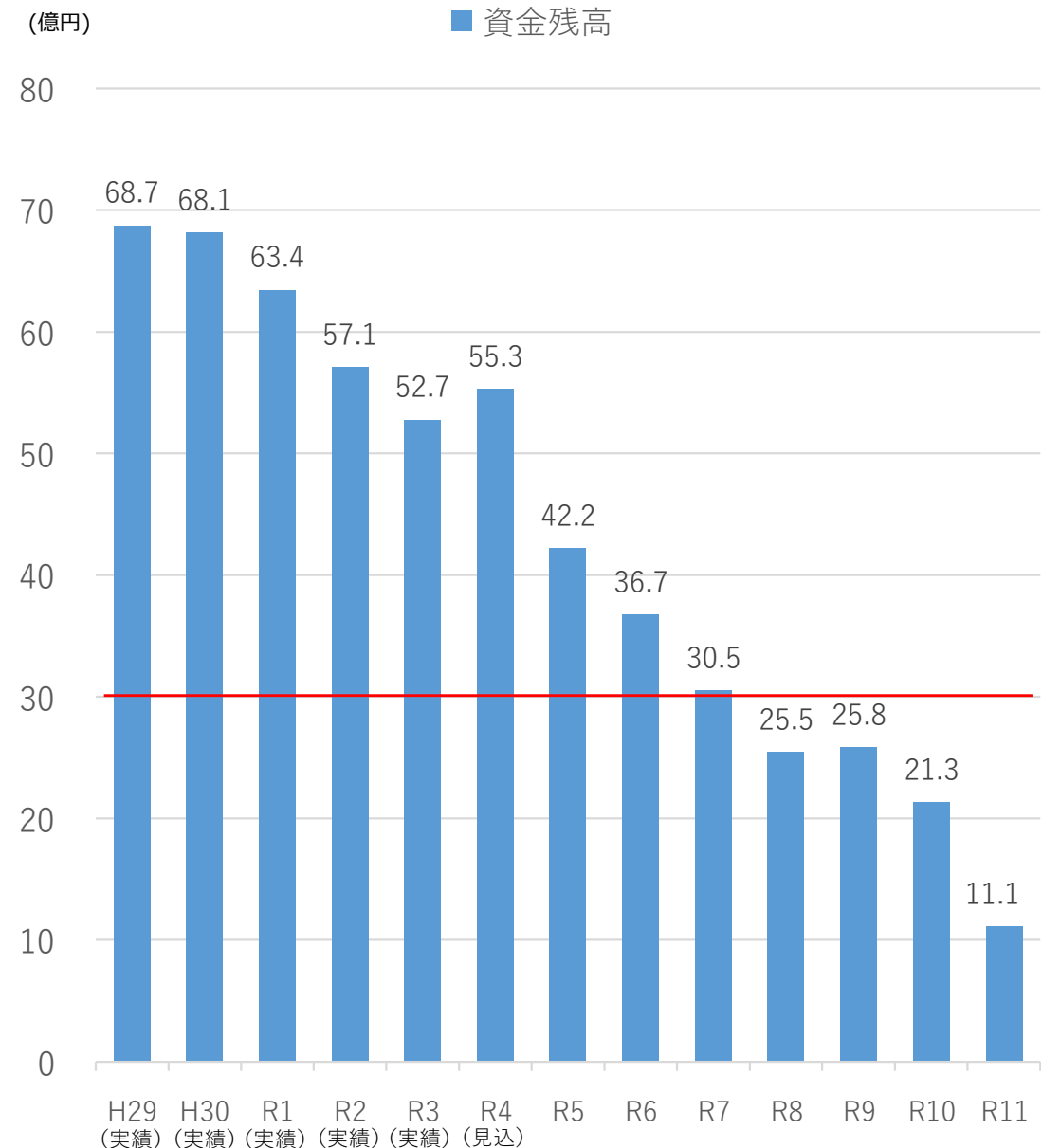


○投資・財政計画ローリング結果から見えてくる課題

③資金残高

- ✓ 資金残高は減少傾向
- ✓ 経営戦略における令和11年度の目標値は30億円 ※1

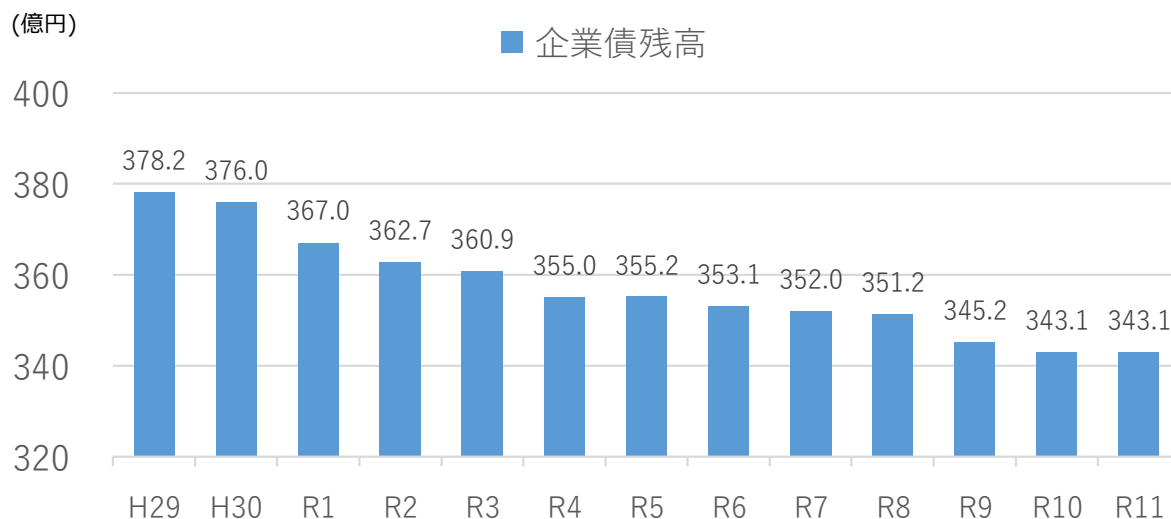
※1：目標値30億円の根拠
資本的収支不足の補填財源として使用する損益勘定留保資金の根拠となる減価償却費を目安としている。



○投資・財政計画ローリング結果から見えてくる課題

④企業債残高

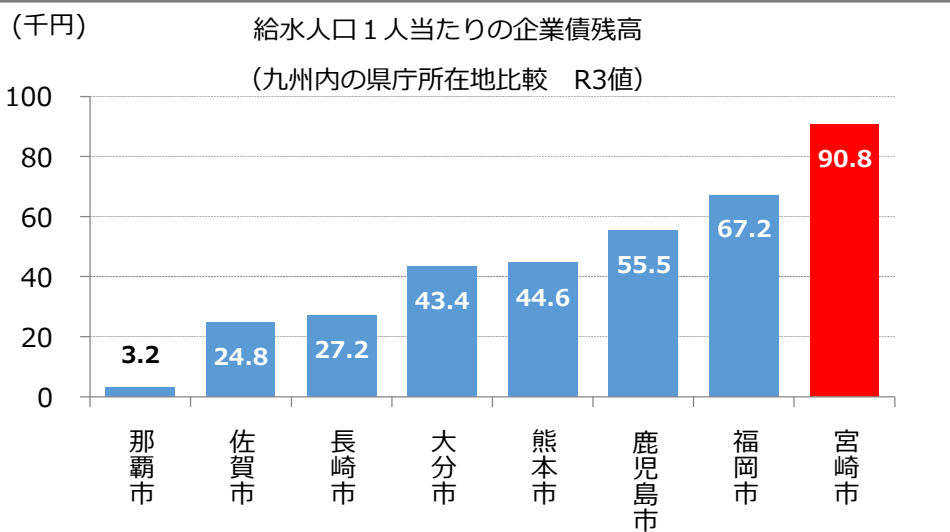
✓ 企業債残高は着実に減少しているものの、九州内の県庁所在地との比較では1番高い水準



(投資せざるを得ない理由)

- ・ 広い面積で疎な居住実態であっても給水義務がある。
- ・ 地勢的に投資効率が低いことが本市の特色。

	那覇市	佐賀市	長崎市	大分市	熊本市	鹿児島市	福岡市	宮崎市
人口密度 (人/km ²) ※1	7,686 (1位)	533 (8位)	1,001 (5位)	951 (6位)	1,875 (3位)	1,096 (4位)	4,566 (2位)	623 (7位)
管路延長 (m) ※2	2.45 (1位)	5.66 (4位)	6.80 (8位)	6.00 (5位)	5.07 (3位)	6.02 (6位)	2.70 (2位)	6.58 (7位)
主な水源 ※3	原水・浄水受水	表流水	ダム直接・ダム放流外	表流水	地下水(深井戸水)	表流水	原水・浄水受水	表流水



※1・・・R4.1.1時点の「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数(総務省)」及び「全国都道府県市区町村別面積調(国土地理院)」から算出

※2・・・給水人口1人当たりの管路延長【R3決算統計より】

※3・・・水道水を作るための水の供給源【R2水道統計より】

令和4年度投資・財政計画ローリング

公共下水道事業

- ローリング結果
- ローリング結果から見えてくる課題

○令和4年度投資・財政計画のローリング結果

投資・財政計画ローリング（主要値抜粋）

（単位：億円）

公共下水	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
収益的収入	101.8	105.5	106.1	106.4	114.5	115.8	113.9	115.8
うち下水道 使用料	49.6	49.7	49.5	49.3	49.3	49.3	49.0	48.9
収益的支出	101.9	104.8	105.3	105.6	113.1	114.1	112.7	114.5
当年度純利益	▲0.1	0.7	0.8	0.8	1.4	1.7	1.2	1.3
建設改良費	77.2	70.3	89.6	84.3	78.5	77.8	67.7	70.2
企業債残高	727.3	717.5	716.4	714.6	713.3	712.7	709.6	706.4
繰入金	38.1	41.9	41.6	41.1	45.7	46.4	44.4	44.2

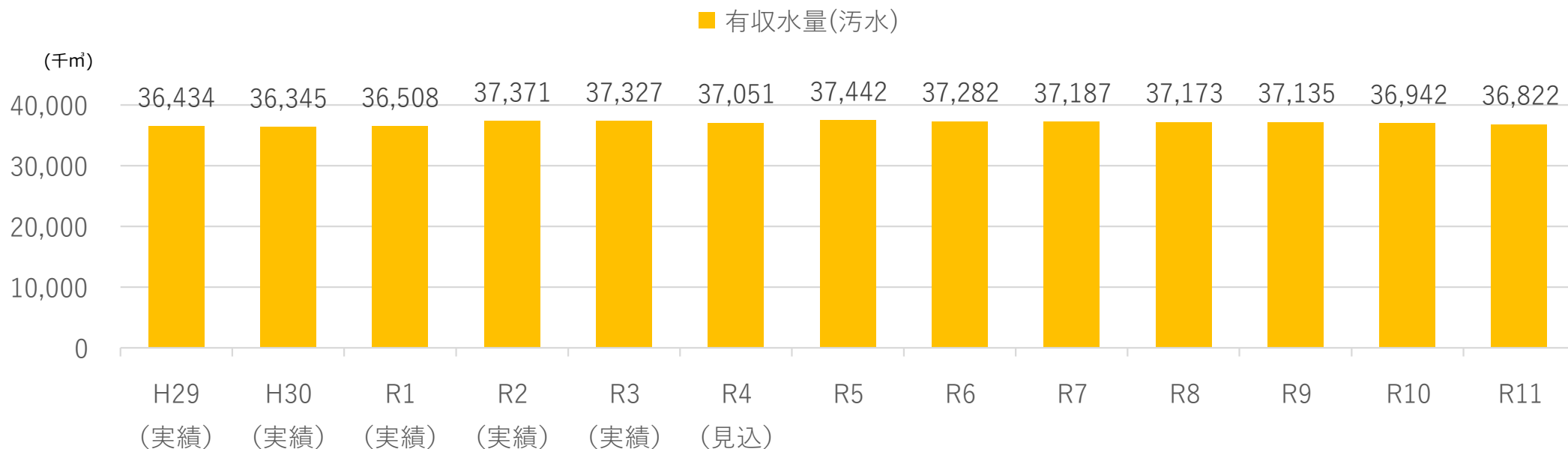
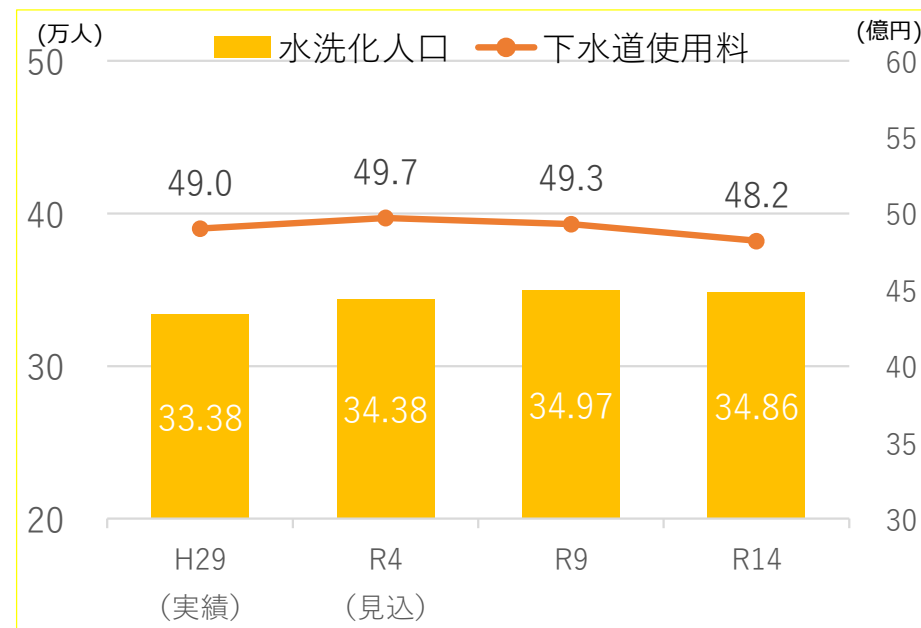
経営戦略における経営目標

- ✓ 当年度純利益の確保
- ✓ 企業債残高の減少
- ✓ 水洗化率の向上

○投資・財政計画ローリング結果から見えてくる課題

①水洗化人口と下水道使用料

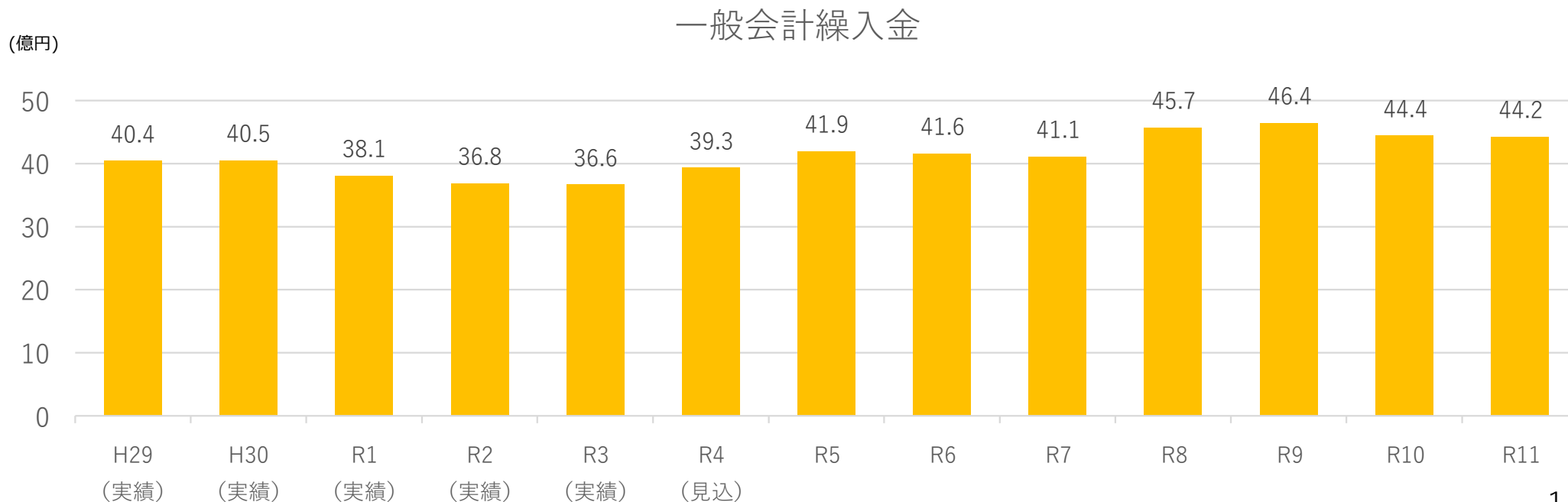
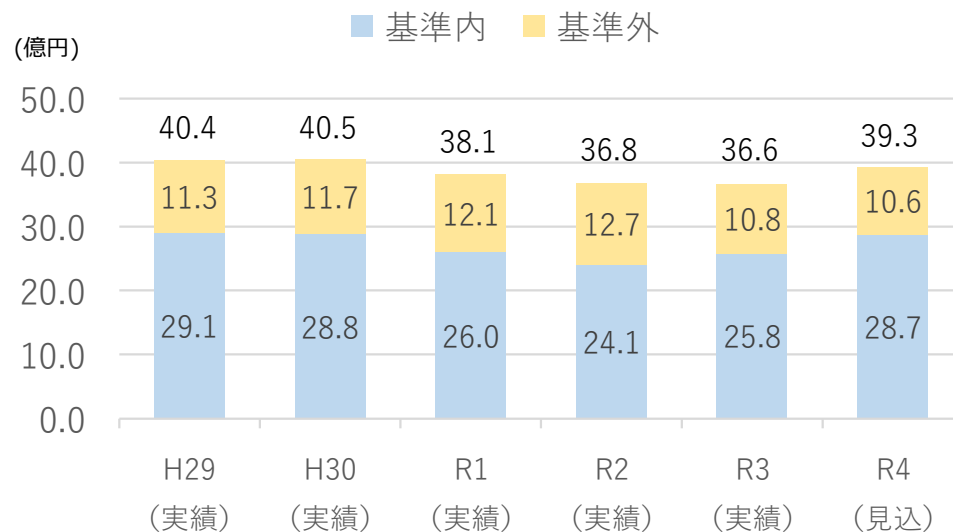
- ✓平成24年に使用料改定
- ✓令和元年度に公共下水道の整備は概成
- ✓しばらくは水洗化人口が増加の見込み
- ✓いずれは水洗化人口も減少し、水道の使用水量減少に伴い使用料収益も減少



○投資・財政計画ローリング結果から見えてくる課題

②繰入金

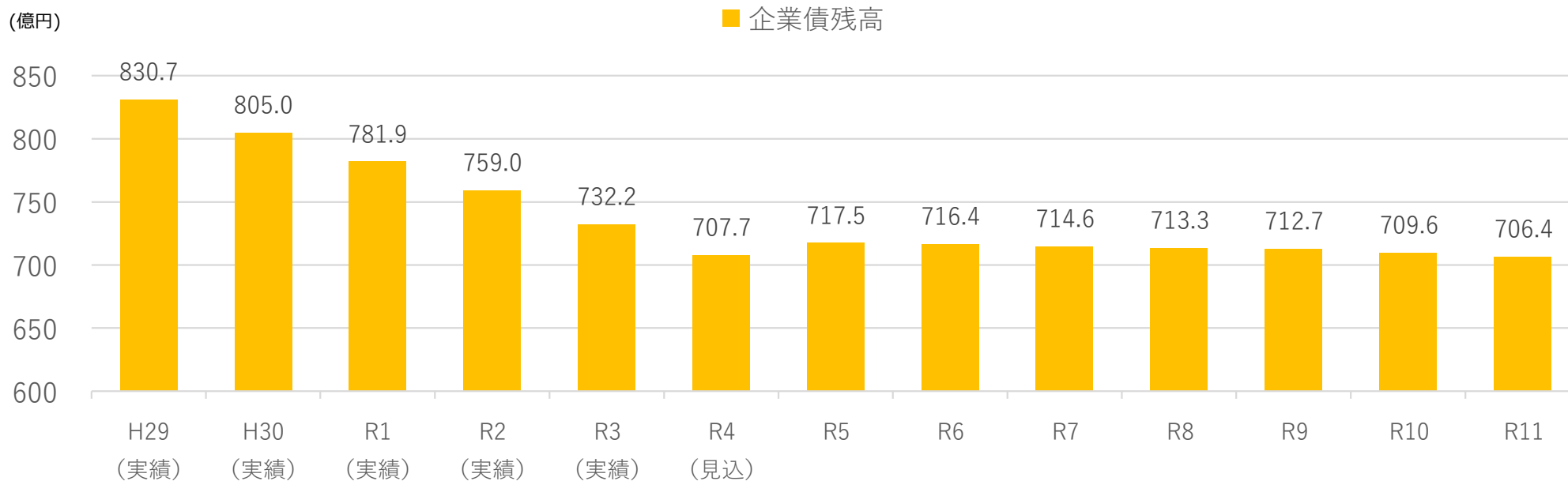
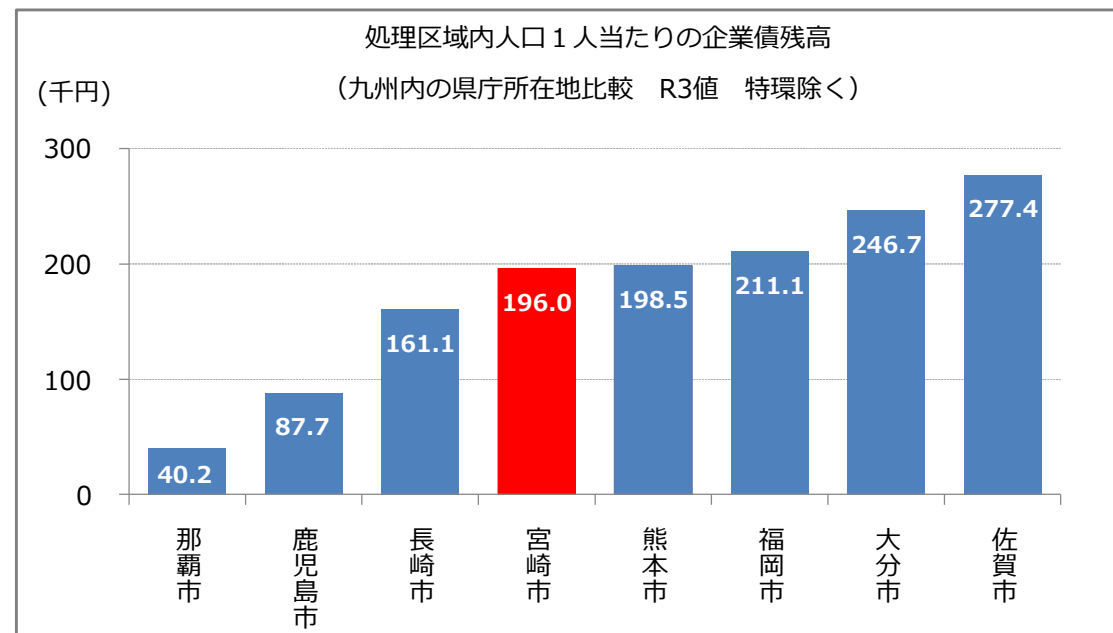
- ✓繰入金は下水道収益の4分の1を占める
- ✓基準内繰入金とは雨水処理の費用
- ✓基準外繰入金として、収支不足分を一般会計から繰り入れている
- ✓独立採算の原則から基準外は減少させる必要がある



○投資・財政計画ローリング結果から見えてくる課題

③企業債残高

- ✓ 公共下水道の整備が概成したことからピーク時に比べ減少傾向
- ✓ 九州内の県庁所在地と比較すると中間の位置
- ✓ 水道事業と比べると2倍以上の額



○上下水道事業の経営に影響を与える懸念事項

●社会情勢の影響

- ✓ 動力費の増加
- ✓ 資材や人件費の高騰による経費の増加
- ✓ 部品の調達に時間を要することによる納期の延長
- ✓ 脱炭素化への対応

【参考】主要施設の電気料金の同時期累計比較

●下北方浄水場（上水道）

（単位：円）

令和3年度		令和4年度		増減
4月～1月	97,676,663	4月～1月	128,844,750	31,168,087

●宮崎処理場（公共下水道）

（単位：円）

令和3年度		令和4年度		増減
4月～1月	117,060,876	4月～1月	160,703,293	43,642,417

○今後の審議事項

●みやざき水ビジョン・経営戦略の進捗管理について

- ・施策評価調書の作成（外部評価）
- ・投資・財政計画ローリング（経営指標達成度）

●みやざき水ビジョン・経営戦略の改定について（計画期間 令和7年度～）

- ・市民アンケートの実施⇒①
- ・成果指標の見直し（みやざき水ビジョンP56）⇒②
- ・計画期間中に取り組むべき事業の確認
- ・ローリング結果を踏まえた事業経営のあり方

※新たな収入確保（広告収入）

※前回（平成28年）の料金改定時に、経営審議会から5年をめぐりに料金改定の必要性を検討することが適当であるとの答申を受けたが、コロナ禍もあり令和2年度から検討を保留中

※更なる経費削減に向けた取り組み

（太陽光発電・維持管理包括委託の拡大・人工衛星とAIを活用した漏水調査・公共下水道の農集統合・PPP/PFI）

① 市民アンケートの実施

● 概要

「みやざき水ビジョン2020」及び「経営戦略」の見直しに際し、上下水道事業に対するお客様の満足度やニーズを把握し、今後のサービスの向上や事業運営に反映させるため実施するもので、令和5年度に実施を予定しています。

● 「みやざき水ビジョン2020」を策定した際に実施した前回の状況

- 実施年度：平成30年度(2018年度)
- 調査対象者：2,000人
- 配付・回収数：796人（有効回答率39.8%）
- 調査項目：
 - ・ 回答者の属性（年齢別、世帯別）
 - ・ 水需要の動向
 - ・ 節水機器の普及と設置時期
 - ・ 水の飲用方法と水質向上の要望(投資)
 - ・ 取組事業に対する関心度
 - ・ 断水時の備え
 - ・ 広報活動の認知度
 - ・ 今後優先して取り組むべき事業への関心

アンケート結果はみやざき水ビジョンP93に掲載

②成果指標の見直し

●成果指標（みやざき水ビジョン2020より一部抜粋）

指標名	単位	現状値 【H30年度】	中間目標 【R6年度】	目標値 【R11年度】
貯水槽水道実態調査	回	年1回以上の更新		
	貯水槽水道設置管理者が貯水槽水道の適正な維持管理を行えるように、設置管理者の実態把握を行い、給水台帳システムで更新した回数を示す。			
配水池貯留能力	日	0.86	0.91	0.96
	1日平均配水量の何日分が配水池で貯留可能かを示す。値が高ければ非常時における配水調整能力や応急給水能力が高いことを表す。			
主要な電気・機械設備の耐用年数超過率	%	83.4	64.6	49.0
	主要な電気・機械設備のうち、耐用年数を経過している設備の超過年数の総計が同じく耐用年数の総計に対して超過している割合を示す。計画的に設備の更新を行うことで値が下がり、安定給水に繋がる。低い方が良い。			
独自の経年化管路率	%	18.7	26.6	28.0
	本市独自の耐用年数で設定した水道管路の経年化状況を示し、低いほど老朽化が抑制されている。			
浄水施設の主要構造物耐震化率	%	29.2	69.8	69.8
	浄水施設の主要構造物の耐震化状況を示し、災害時においても安定的な水の供給ができるかを表した指標であり、浄水場の耐震化や更新を行うことで値は高くなる。			